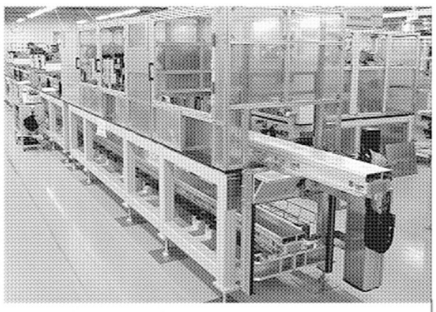
大型製品組み立て棟増築

エーアイテック、本社工場に

車載部品向け需要に対応

ライン全体で受注狙う

電子部品製造装置のエーアイテック（長野県松本市）は本社工場を増築し、大型製品の組み立てスペースを拡大する。自動車の高機能化に伴い、主力の車載電子部品製造装置の需要が高まっていることに対応する。広げたスペースを生かして自社製品を組み合わせ、製造ラインを丸ごと受注する戦略も描く。2030年6月期までに単体の売上高を6割増やす目標を立てる。



低高温検査機などを組み込んだ、製造ライン全体での受注を目指す

本社工場の増築棟㊧は、既存棟と各階で行き来できる（イメージ）

エーアイテックの本社工場では協力会社から納品された部品を組み立て、完成品にするまでを担っている。増築部分は23年12月末までに工事を完了させ、24年初めから稼働させる予定だ。

既存の工場棟は3階建てだが、自動車部品メーカーから引き合いが強い低高温検査機や防湿材塗布機、硬化炉などの組み立てに使えるスペースは1階に限られている。装置のサイズが大きく、エレベーターで運搬できないためだ。延べ床面積で約9000平方㍍ある工場のうち、大型製品の組み立てに使えるのは2000平方㍍ほどにとどまっている。増産にはスペースを拡大する必要があった。

増築棟は3階建てで、延べ床面積は約5000平方㍍ある。既存棟とは各階で行き来ができる設計だ。既存棟より大きなエレベーターを設置することで、全てのフロアで大型製品の組み立て作業をできるようにする。生産能力の向上により、22年6月期で37億円だった単体での売上高を、30年6月期に60億円まで増やすことを目指す。

増築で大型装置を組み立てられるスペースが広がり自社製品同士をつなげる作業もしやすくすることをいかし、製造ライン全体で受注する機会も増やしたい考えだ。車載電子部品の製造では、低高温検査機と防湿材塗布機などを組み合わせて1つのラインを構成することが多い。製造装置を単体で売るだけではなく、組み合わせて製造ライン全体で販売できれば売り上げの増加につながる。

顧客も1つのラインを構成する装置を複数の企業に発注するより、1社に任せた方が手間が省ける。エーアイテックの林泰彦代表取締役は「一部装置の納品遅れにより、ライン全体の稼働が遅れるといった事態を防げる。操作性にも統一感が出て、使いやすくなる」とメリットを説明する。

同社には既に、ラインという。増築により生産能力を引き上げるだけでなく、顧客のニーズに柔軟に対応できる態勢を構築して売上高60億円の目標を達成させる。

（赤堀弘樹）

許諾番号30094590　日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

掲載日 2023年07月25日 日本経済新聞　地方経済面 北陸 © 日本経済新聞社 無断複製転載を禁止します。